

2022. 12. 25 (日) ヨハネ1:14

1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

<説教>

本日聞くみことば、〈ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。〉これが、今から二千二十数年前、ユダヤの地で実際に、現実起きたことでした。それは神の御意思により、神の力によって、〈万軍の主の熱心〉(イザヤ 9:7)によって神が起こさせた、神のみわざでした。使徒信条の言葉で言えば、「天地の造り主、全能の父なる神」の「ひとり子、我らの主イエス・キリスト」が「聖霊によりて宿り、処女マリアより生まれ」なされたことでした。

私たちの救い主、主イエス・キリストは〈ことば(ロゴス)〉、即ち、意思があり、知恵があり、計画し、そのとおりに実行し成就なさる力あるお方として永遠に存在しておられ、神とともにあり、神であるお方(1-2)です。神として、すべてのものをお造りになったお方です(3)。いのちそのものであり、いのちの源であるお方、〈人の光〉として闇の中に輝き続け、闇に打ち勝つお方です(4-5)。〈すべての人を照らすそのまことの光〉(9)、〈この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権〉を神が〈お与えになった〉(12)唯一無二のお方、それが私たちの主イエス・キリストです。

その私たちの主イエス・キリストがこの世に来られる、その来られ方がどのようにしてだったかということを使徒ヨハネは言います。〈ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。〉と。「ことばは人となった」とは、今まで見て来たことからして「神が人となった」と同じことです。それは、「まことの神、まことの人」イエス・キリストを既に信じている者にとっては、疑いの余地のない、いわば当たり前のことでしょう。しかし、信じられない人たちにとってはつまずきとなることです。それは「神などいない」という無神論者にとっては初めから論外のことでしょう。また神を信じるという人々にとっても(その神が本当の神かどうかは別としても)、その神が神らしく、人とは全く次元の違う神、人を超越している聖なる神であればあるほど、神のままでいてくれればいいのであって、別にわざわざ人になんかならなくてもいい、この世ではないあの世から何らかの助けを与えてくれればいいというような人もいます。

しかし使徒ヨハネは、聖書は「ことばは人となった」とはっきり宣言します。なお、この「人」と訳された言葉は直訳では「肉」です(欄外注)。同じヨハネは〈神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。〉(Iヨハネ 4:2-3)とも言います。当時(そして今もいるでしょうが)、イエスを信じるけれども、それは「霊的」イエスであって、イエスが人の目に見える〈人となった〉ことは信じないという異端がありました。また、「神(イエス)が人となった」ということは、確かに目に見えるようにはあるけれども、それは一時的な「仮

の姿」だったと主張する「キリスト仮現説」と言われる異端説もあります。

またそれらとは反対に、〈ことば〉なるイエスが「人となった。肉となった」ことによって、イエスは神であることをそこでやめて、以後は「人」だけになったと考える人たちもいます。しかし、それも間違っています。使徒ヨハネは言います。「私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」と。どんな人であれ、人に過ぎない人に、このような〈栄光〉を見たり〈栄光〉を帰することを使徒がするはずがありません。「あなたは生ける神の子、キリストです。」というペテロの告白をイエスご自身が認めてくださいました(マタイ 16:16-17)。そしてイエスご自身が「わたしと父とは一つです。」と言っておられます(ヨハネ 10:30)。

そこで、「ことばは人となった。」とは、神であるイエスが神であることをやめないで人となった、神であるイエスが人と同じ肉をとった、肉をまとったということです。神から人への変化でもなく変幻でもありません。神と人の合成でもなく、混合でもありません。神が半分、人が半分、たして一人の「神人」でもありません。100%神、100%人です。神性(神としての性質、本質)と人性(人としての性質、本質)がイエスという一人のお方(一人格)の中で「混合も、変化も、分割も、分離もされず」(5C.カルケドン信条)、更に正確に言うなら、人性が神性の下に、人性が神性に完全に服従する仕方で結びついているのです(キリストの二性一人格)。

そのように、罪だけは別として、後はすべて私たちと同じ肉(体)と、意思、理性、知性、感情など、また悪魔の誘惑を受けることまで含めて、すべての人間的要素を神の御子イエスはマリアを通してお取りになって、この世にお生まれになりました。天で顕しておられた神としての栄光の御姿を捨てて、ご自分を空しくして、しもべの姿を取り、人間と同じようになられました(ピリピ 2:6-7)。しかもその人間の中でも更に一番低くなられ、〈飼葉桶に寝ているみどりご〉(ルカ 2:16)としてこの地上に生まれ、来てくださいました。だからこそ、そのへりくだりをもって、イエスは完全な人間として、私たちの罪を負って十字架で死んでくださり、私たち罪人の代わりに神のさばきを受けてくださり、私たち罪人の代わりに神への完全な従順を献げることがお出来になったのです。

そのためにイエスは人となって〈私たちの間に住まわれ〉ました。つまり、この私たちが現実に生まれ、住み、生きて、死ぬこの世に、地上に来てくださいました。「住まう」という言葉には「天幕を張る」という意味があります。昔、イスラエルの民に神がその臨在と栄光を現す場所が荒野の天幕であり、後には神殿でした。そのように、今の私たちは、人となってこの世に来られた(勿論今は天におられますが)神、イエス・キリストによって、イエスを通して、イエスのみことばとみわざのうちに神の栄光を見るのです。そして確かにイエスは聖霊によって、イエスを信じる私たちの中にも住んでくださいますから、そのイエスによって神の栄光を見ます。「見る」とは〈じっと見つめ〉る(Iヨハネ 1:1)ことです。つまり、関心をもって、愛をもって、神を求め、イエスを求めて、ついには救いにあずかる、そして救いにあずかり続けるのです。そして尽きることのない、イエスのうちに無限に満ちている〈恵みとまこと〉を受け続けるのです。この世にあって、既にそうであり、天の御国においてはますます永遠に、であります。

